

## 小特集：専門職教育における社会学

### 小特集「専門職教育の社会学」掲載の経緯と意義について

梶田 美雄

神戸市看護大学

kashida.yoshio@nifty.com

以下の5本の論考は、2015年秋に早稲田大学戸山キャンパスにおいて開催された『第88回 日本社会学会大会』<sup>i</sup>において、「研究活動委員会企画テーマセッション」として開催された「専門職教育における社会学-現場にフィットする理論と方法の再創造-」<sup>ii</sup>の記録として、掲載されるものである<sup>iii</sup>

このテーマセッションの開催趣旨は、事前に研究活動委員会内で回覧され承認された趣旨文によれば、以下の通りである。

#### 企画趣旨：専門職教育における社会学

##### 一現場にフィットする理論と方法の再創造

専門職、とりわけ、対人サービス専門職の高等教育プログラムおよび実務者研修の課程においては、社会学教育の必要性が増しているといえるだろう。なぜなら、社会学こそは、複雑化する現代社会を読み解く基礎的能力を提供し、他職種や市民との協働を円滑にして各専門職の業務遂行を助け、さらには、社会変動への適応能力を高めて生涯学習の基盤となるものだからだ。

けれども、大学および大学院における社会学教育の現況は、このニーズにできていないように思われる。すなわち、教養教育科目としての「社会学」が終了したあとは、専門職教育課程においては「社会学系科目」はほとんど提供されておらず、学生や院生にとっては、社会学を習得して職業生活に活かして行くチャンスがない状態になっているのである。本テーマセッションでは、この問題を考えて行きたい。

すなわち、テーマとしては、教養教育としての社会学教育、とも、社会学専攻における社会学教育、とも違う、対人サービス専門職に対する「職種別社会学教育」の可能性を考えて行きたい。なお、この構想には、専門職教育ニーズに誠実に対応することが、社会学研究の革新に繋がるだろうという研究的展望も含まれている。つまり、この教育改革

は、各対人サービス現場にフィットした理論と方法を社会学に再創造させ、研究をも活性化させるだろう、と考えているのである。

具体的な領域としては、教員養成、医療職養成、法律専門職養成、福祉職養成等の各分野に関わる登壇者を得たい。また、発表には、現行の慣習的・制度的な縛りに囚われない、未来志向の提案的なものが含まれることが望ましい。たとえば、教育担当者に、各専門職の職業人が、1～2年の研修を受けて就任することがあってもよいだろう。また、国家試験や検定（例：医師国家試験、法学検定等々）や実務者研修制度の中に「社会学」を組み込むこと等も検討されてよいだろう。演題例としては、「医師養成において社会学に期待すること」、「教職免許更新講習の中での社会学の可能性」などが考えられよう。

なお、本セッションに関連した日本社会学会の取り組みとしては、『社会学評論』61巻3号に「特集：周辺への/周辺からの社会学」があり、他学会においては、文化人類学会や経済教育学会での取り組みが先進的である。それら、近接学会の戦略と動向を報告する発表も歓迎したい。

この開催趣旨に基づいた文章が『日本社会学会ニューズレター』に載せられ、登壇者の公募がなされた。最終的に、応募者から選ばれた登壇者は、委員会内から、中澤秀雄氏（中央大学）、委員会外から、金子雅彦氏（防衛大学校）、和泉俊一郎氏（東海大学）、本郷正武氏（和歌山県立医科大学）、樫村志郎氏（神戸大学）、斎藤和貴氏（東京学芸大学付属小金井小学校）の5人であり、総計6名であった。この6名に司会の樫田を加えた簡易なML（メーリングリスト）が設置され、相互に発表草稿を提示し合う形でのすりあわせが、直前まで、電子的になされた。

テーマセッション当日は、早朝からの部会であったにもかかわらず、ほぼ満席の50人強の聴衆が集まり、白熱した議論を行うことができた<sup>iv</sup>。趣旨文にあるように、このテーマセッションは、単に学術的な議論を交わすためのものではなく、日本社会学会がどのように現代日本社会に貢献するのか、という観点をも含むものであった。企画者としては、以下の5本の論考に基づいて、そのような議論が発展していった欲しいと思っている。

- 
- i 大会は9月19、20日の両日開催だったが、セッションは9月20日午前に開催された。  
ii テーマセッションとは、企画者が発表呼び掛け文を学会ニュースで公表して、応募者が登壇するミニシンポジウムのような学会大会の企画のこと。例年、日社では研究活動委員会主催のものが1～2本、一般会員が企画・主催するものが5～6本実施されている。  
iii なお、当日は、6本目の発表として齊藤氏の「児童の「つぶやき」の取り扱いと教室秩序との関係」も報告されたが、ご本人のご意向により本小特集には、掲載されていない。  
iv 9月20日のテーマセッションでの議論に基づく論考は、樫田の方で準備中である。